



令和4年度
教育行政執行方針

 魚の城下町らうす 



持続可能な未来へ
.....
羅臼町教育委員会

目 次

1. はじめに	1
2. 羅臼町における教育行政推進の基本姿勢	3
3. 主要施策の推進	
(1) 社会で生きる力の育成	4
(2) 羅臼町の未来を拓く人材の育成	12
(3) 生涯学習や芸術文化・スポーツの振興	16
4. おわりに	20

令和4年度教育行政執行方針

教育長 和田 宏 一

1. はじめに

令和4年羅臼町議会第1回定例会の開催にあたり、教育行政の基本姿勢および主要な施策について申し上げます。

新型コロナウイルス感染症の影響が依然として大きい昨今、新たな生活様式として、マスクの着用や三密の回避、消毒作業などの感染症対策が日常化し、これまでの生活や人々の価値観が大きく様変わりする中、学校教育の在り方もまた大きく変化をしてきており、従来の知識や経験だけでは解を見出すことが難しい時代となっています。

また、学校現場において、ICT化が急速に普及をする中、児童生徒一人ひとりには、情報モラルや情報リテラシーといった、情報を扱う上での道徳心、大量の情報の中から必要なものを収集し、分析・活用する知識や技能の習得が求められてきます。

依然として回復の兆しが見えない人口減少やますます加速化する

グローバル化への対応、持続可能な地域づくりのための環境教育の充実などの取組を、SDGs 17の目標を念頭に行うことにより、次代を担う子ども達が豊かな語学力やコミュニケーション能力、主体性・積極性、異文化理解の精神等を身に付け、様々な分野で活躍できるよう育成することが大切です。

当町の豊かな自然環境や歴史・文化のもとで、子ども達がふるさとに誇りと愛着を持ち、共に支え合い、自らの感性や創造性を磨き、無限の可能性を發揮する逞しい人材へと成長していくことができるよう、「羅臼町教育大綱」を基に、町民の皆様と様々な分野について広く緊密な連携を図りながら、教育の充実・発展に取り組んでまいります。

2. 羅臼町における教育行政推進の基本姿勢

こうした認識のもと、教育行政に臨む基本姿勢を申し上げます。

当町の教育目標である「ふるさと羅臼の躍進を創造し、いきいきと逞しく行動する心豊かな町民の育成」の実現に向け、SDGs 17の目標を念頭に、羅臼町教育大綱で示されている「社会で生きる力の育成」、「羅臼町の未来を拓く人材の育成」、「生涯学習や芸術文化・スポーツの振興」の3項目を大きな柱とした施策の推進を行います。

また、大きく変化し続づける社会において、誰一人取り残すことなく、全ての子ども達一人ひとりが質の高い個別最適な学びと協働的な学びを受けることができるよう、「学びを止めない」、「心を近づける」教育を推進し、学力・体力の向上をはじめとする郷土愛に満ちた教育施策を充実してまいります。

この先、当町が持続的に発展していくには、人材の確保とともに人材の育成が必要不可欠であり、学校教育での次代を担う子ども達の育成と社会教育での現在を支える青年層の育成を通し、地域の活力を支える教育行政を推進してまいります。

3. 主要施策の推進

次に、主要な施策の概要を申し上げます。

(1) 社会で生きる力の育成

はじめに、「社会で生きる力の育成」についてであります。

平成24年に現在の「羅臼町幼小中高一貫教育推進協議会」の前身である「羅臼町幼小中高一貫教育研究会」が組織されてから、当町の幼小中高一貫教育の取組は10年を経過しました。

本年度は、昨年度制定した幼小中高の共通の研究主題と、「羅臼町学力向上プラン」に基づき、校種を越えて連携を深め、確かな学力の育成に取り組むとともに、成果の発表の場として、幼稚園・小中学校ごとに公開授業研究会を開催し、授業の検証を行います。

また、教師個々の授業力を高めることが、学力向上に大きく関わることから、校内研修、幼小中高を対象とした合同研修会のほか道立教育研究所と連携した研修講座を実施するとともに、知床未来中学校においては、北海道教育大学付属釧路義務教育学校後期課程と連携した研修を実施し、教師の授業力向上に努めます。

さらに、「羅臼町幼小中高一貫教育推進協議会」の組織再編を行い、全教職員に役割を持たせることにより、幼小中高一貫教育を一層推進させ、SDGsの4番目の目標である「質の高い教育をみんなに」を目指します。

確かな学力の育成には、言語活動や探求的な学習の充実が必要であり、継続して学校司書を配置し、各校を巡回することにより、学校図書館の更なる機能の向上を図ります。

また、図書館司書と連携した読書活動等を通じて、園児児童生徒の豊かな人間性の育成に努めるほか、不足していると言われる家庭での読書を推進するため、家読（うちどく）活動に取り組み、「4 質の高い教育をみんなに」を目指します。

「健やかな体を育む教育」に関し、小学校において実施した体育専科教員活用事業及び体育エキスパート教員巡回指導事業における授業改善の成果を継承します。

また、全学年で実施している新体力テストを通じ、児童生徒の実態を把握し、体育科の指導内容・指導方法の更なる工夫改善に努め、体

力の向上を目指します。

さらに、児童生徒が栄養バランスの取れた食事を行うことができるよう、栄養教諭を活用した継続的な食育指導を計画的に行い、食に関する知識とバランスの良い健全な食生活を実践できる力を育み、

「3 すべての人に健康と福祉を」 「4 質の高い教育をみんなに」
を目指します。

「いじめ」は、どの子どもにも、どの学校においても起こり得るものとして、日常からの未然防止、早期発見、早期対応に努めるという意識が大切であります。

「羅臼町いじめ防止基本方針」に基づき、「いじめは人間として絶対に許されない」という毅然とした態度で取り組むとともに、学校・家庭・地域、その他関係機関の連携・協力のもと、日頃よりいじめに対する適切な対応に努め、「5 ジェンダー平等を実現しよう」
「16 平和と公正をすべての人に」を目指します。

幼児教育は、生涯にわたる人格形成の基盤を培う上で大変重要なものであることから、幼稚園での活動全体を通して、幼稚園教育要領

で定める「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」への育みを実現させる質の高い教育を提供できるよう関係機関と連携し、教員のニーズに応じた研修の充実を図り、「4 質の高い教育をみんなに」を目指します。

児童が義務教育の始まりにスムーズに適応していくことができるよう構成した「スタートカリキュラム」の編成実施にあたっては、幼稚園・小学校それぞれの役割を果たし、相互の幼児児童の実態や指導方法について理解を深め、広い視野に立って幼児児童に対する連続性・一貫性のある教育を相互に協力しあうよう努めます。

さらに、ALT（英語指導助手）による外国語活動を年少児から年長児までのすべてで実施し、園児が楽しく英語に触れる機会を持たせ、「4 質の高い教育をみんなに」を目指します。

特別支援教育は、特別な支援が必要な子どもの自立や社会参加に向けた主体的な取組を支援するという視点に立ち、一人ひとりの教育的ニーズを把握し、その持てる力を高め、生活や学習上の困難を克服あるいは改善するため、適切な支援を行うことが必要です。

幼稚園や小中学校の特別支援教育コーディネーター等を中心に、保護者や関係機関と連携した支援体制の充実に努め、個別の支援計画「こんぱす」の一層の活用を促進するとともに、より一人ひとりのニーズに沿った学習とするための指導計画を作成し、切れ目のない一貫した支援を目指します。

また、専門的な知識をもって指導できるよう、指導者への研修機会の充実に努めるとともに、支援が必要な子どもを持つ保護者へのサポート体制として個別面談や研修会を充実させ、「3 すべての人に健康と福祉を」「4 質の高い教育をみんなに」を目指します。

健やかな子の成長を願い、地域全体で子ども達の学びを支援し、地域とともにある学校づくりを行うため「羅臼町学校運営協議会」を設置し、「社会に開かれた教育課程」の実現を目指して、地域の協力を得ながら取り組んでおります。

今年度も各学校区に配置しました3名の地域コーディネーターと連携を密にしながら、更なる組織強化を図るとともに、子どもの教育を軸として、学校教育と社会教育とが協働・連携を図り、地域の教育力を充実させることにより、「4 質の高い教育をみんなに」

「11 住み続けられるまちづくりを」「17 パートナースHIP
で目標を達成しよう」を目指します。

子ども達の安全・安心で健やかな育ちの基盤である家庭の教育力
向上につきましては、多様化する家庭状況にあっても等しく教育力
を高めるため、子ども達の望ましい生活習慣の定着に結びつけ、子ど
も達の健やかな成長と自律、親力向上の研修の機会として、親子で参
加する体験型の学習会等を開催し、「1 貧困をなくそう」「4 質の
高い教育をみんなに」を目指します。

I C Tを活用した教育では、登校が困難な状況下であっても、「学
びを止めない」教育環境実現のため、これまで一人一台端末の整備の
ほか、すべての小中学校において、遠隔授業を行える環境を整備し、
実際に遠隔授業を実施してきております。

また、デジタル教科書について、一部教科で導入しておりますが、
本年度はさらに教科数を拡大するとともに、デジタル教科書を活用
した授業の指導方法工夫改善に向け研修の機会を設け、I C Tの特
性を生かし、個に応じた学習の充実が図れるよう努めます。

なお、急速に進む情報化社会に伴い、インターネットやSNSを活用する機会が増加し、様々なトラブルも増加しています。児童生徒に「情報モラル」を身につけ思いやりのある行動がとれるように、また、情報をすべて鵜呑みにするのではなく、客観的に判断する能力を育てるための「情報リテラシー教育」に力を入れることで、「4 質の高い教育をみんなに」を目指します。

各学校では、新型コロナウイルス感染症対策を徹底しながら、子ども達の学びを最大限に保障するという観点に立って学校教育活動に取り組んでいます。こうした教員の業務負担増を軽減するためにも、より実効性のある働き方改革の取組を一層進めていく必要があります。

第1期羅臼町アクション・プランによる学校閉庁日や部活動休養日の設定は当初の目標を達成し、一定の定着が図られていますが、さらに働き方改革の理念を正しく理解し、すべての教職員に勤務時間を意識した働き方の実現を目指すため、教職員の時間外在校等時間の公表を行うとともに、令和4年度からの「第2期羅臼町アクション・プラン」を推進し、「3 すべての人に健康と福祉を」「4 質

の高い教育をみんなに」 「8 働きがいも経済成長も」を目指します。

教育施設に求められる機能・性能を長期にわたり確保することを目的とした「羅臼町教育施設等長寿命化計画」に則り、本年度は羅臼幼稚園の照明のLED化を実施し、教育環境の充実を図ることにより、「11 住み続けられるまちづくりを」 「12 つくる責任つかう責任」を目指します。

(2) 羅臼町の未来を拓く人材の育成

次に、「羅臼町の未来を拓く人材の育成」についてであります。

羅臼高等学校は、近年のグローバル化や情報化の進展などの社会の急速な変化や、生徒の興味・関心、進路希望等の多様化、中学校卒業生数の減少などの環境の変化に対応し、未来を担う人材を育む教育機能の維持向上を図るため、生徒や保護者にとって進学したいと思える魅力ある学校づくりを進めております。

教育委員会では、その様々な取組を支援するとともに、持続可能な環境や魅力ある学校づくりに向けた取組について羅臼高校や関係機関等と連携・協議し、「9 産業と技術革新の基盤をつくろう」「11 住み続けられるまちづくりを」を目指します。

当町では、持続可能な社会づくりの担い手を育む教育を推進するため、平成24年度より、町内の幼小中高全ての学校をユネスコスクールに登録し、海の豊かさや陸の豊かさを守る取組の達成に向け知床学として「クマ学習」、「生態系学習」や「海洋教育」、「キャリア教育」などに取り組んできております。

特にその中心となる「海洋教育」については、令和元年度から町内全ての幼稚園・学校が「海洋教育パイオニアスクールプロジェクト」の指定を受け、教材開発と授業実践に取り組んできました。

本年度は、知床学の副読本の改訂を行うとともに、パイオニアスクールプロジェクトの先進校や先進地を視察し、意見交換や課題協議を行い、「海洋教育」の発展に努めてまいります。

E S Dを推進してきた当町は、新たにゼロ・カーボンの目標を追加し、S D G s という具体的ゴールに向かい、これらの理解を深めるため、また、「ふるさと教育」の充実のためにも教職員の研修機会の充実と「ユネスコスクール発表会」などを通じて情報発信を推進することにより、「11 住み続けられるまちづくりを」「13 気候変動に具体的な対策を」「14 海の豊かさを守ろう」「15 陸の豊かさも守ろう」を目指します。

キャリア教育は、子ども達が将来、社会的・職業的に自立し、社会の中で自分の役割を果たして、自分らしい生き方を実現する力を身につけさせるものであり、小学校1年生から中学校3年生までの9年間を見通した「羅臼町版キャリアパスポート」により、それぞれの

個性に応じた進路の実現に繋がるよう努めます。

また、各種関係団体との連携のもと、当町の基幹産業である水産業をはじめ、酪農や観光業、食品加工業など多種多様な職業体験の場の確保に努め、児童生徒の将来の職業選択の幅を広げさせることにより、「8 働きがいも経済成長も」を目指します。

世界自然遺産「知床」の地である当町にとって、海外への情報発信や多様な国との交流を図ることは大切であり、そのためのグローバル人材の育成に力を入れていくこととしています。

昨年度に引き続き、英語教育の充実のためALT（外国語指導助手）を2名体制にするとともに、「地域おこし協力隊」を活用し、授業のほかにイングリッシュキャンプを実施するなど、子ども達が日常的に英語によるコミュニケーションができる力を育ててまいります。

また、児童生徒が自らの英語力の向上を体感し、更なる高みを望む意欲を醸成するため、小学校5年生から実用英語技能検定への受験を促し、将来的には中学校3年生卒業時に実用英語技能検定3級合格率50%、高校3年生卒業時には準2級から2級程度の合格率30%を引き続き目指してまいります。

さらに、各小中学校及び高等学校における知床学の学習の成果発表を英語で行うこととし、世界に向け発信することによって、
「4 質の高い教育をみんなに」 「17 パートナーシップで目標を達成しよう」を目指します。

(3) 生涯学習や芸術文化・スポーツの振興

次に「生涯学習や芸術文化・スポーツの振興」についてであります。

現代社会においては、生涯学習を通して豊かな心を育み教養を高めることはもとより、情報化社会を生き抜く術を身につけることが必要とされています。

現在、図書館は、役場 1 階に開設し、町民の読書活動を継続しております。しかし、施設が狭く開架冊数や図書館機能が限られ、十分な図書サービスが行えていないことから、代替施設も含め、今後のあり方についての協議・議論を加速させてまいります。

また、「第 2 期子どもの読書活動推進計画」により、子ども達の読書習慣の定着や家庭での読書の取組を推進し「1 貧困をなくそう」「4 質の高い教育をみんなに」を目指します。

当町の社会教育は、「第 8 次社会教育中期計画」(令和 2 年度から令和 5 年度)に基づき、各種事業を実施しており、その効果・検証を行い、地域に誇りと愛着を持ち、主体的に行動できる町民の育成を目指したふるさと学習を推進し、「1 1 住み続けられるまちづくりを」

を目指します。

公民館については、多様な学習機会や集会の場として、地域における住民の学習要求等に総合的に応える社会教育施設であり、地域社会の形成や地域文化の振興に大いに貢献する日常生活に最も身近な生涯学習の施設として重要であると認識しております。

今後の公民館のあり方につきましては、引き続き関係団体等と意見交換を行いながら検討し、「4 質の高い教育をみんなに」「17 パートナーシップで目標を達成しよう」を目指します。

郷土資料館では、羅臼の歴史・文化・自然についての資料展示や継続的な文化財保護活動を行っております。

当町の歴史、文化を伝承し、郷土に誇りと愛着を持つ子ども達の育成を図るため、町内の小中高のふるさと学習において、旧石器時代からオホーツク文化やアイヌ文化、近代の羅臼に至るまでの歴史や生活、文化について学習する機会の提供を図り、「4 質の高い教育をみんなに」「11 住み続けられるまちづくりを」を目指します。

防災教育につきましては、児童生徒の安全確保の観点から、地震や津波、台風などの自然災害時において、自ら身を守る能力を育むため、本年度、北海道実践的安全教育モデル構築事業の指定を受け、大学や防災関係者による講演や授業等を行い、地域住民や児童生徒の防災意識を高め、「11 住み続けられるまちづくりを」を目指します。

文化・芸術活動の振興につきましては、町民がつながり、心を結ぶ地域づくりとなるよう団体・サークル等と連携し、芸術文化鑑賞の機会提供や活動成果の発表機会の充実を図ります。

また、本町の文化発展に寄与することを目的とした羅臼町文化協会をはじめ各種サークルの活動にあたって、持続可能な活動とするためには青年層の参加を促す必要があり、若者にも魅力ある企画の展開や、芸術文化の発展をするための支援等を行い、「11 住み続けられるまちづくりを」「17 パートナーシップで目標を達成しよう」を目指します。

スポーツ活動の推進につきましては、昨年7月に町民体育館（らすぽ）がリニューアル・オープンし、徐々に活気を取り戻してきており

ます。

また新しく子ども向けのプレイルームを設置したことから、親子での利用が増加しております。

町民の健康増進や誰もが参加しやすいスポーツ事業の展開を図るため、親子で参加できる機会の提供や高齢者向けの教室等、スポーツ関係団体と連携した社会体育活動を推進し、「3 すべての人に健康と福祉を」「1 1 住み続けられるまちづくりを」を目指します。

4. おわりに

以上、令和4年度に取り組む主要な施策を申し上げました。

新型コロナウイルス感染症対策が引き続き行われる中、園児児童生徒が健やかで豊かな学びが続けられる地域づくりを推進するためには、学校・家庭・地域・行政の緊密な連携と、深い理解が不可欠です。

知床学をはじめとするふるさと教育を核としたESD（持続可能な開発のための教育）を推進し、持続可能な教育環境の整備に努め、羅臼町の教育の充実・発展に取り組んでまいります。

議員の皆様をはじめ、町民の皆様のご理解とご協力を心からお願い申し上げます。